

学 位 論 文 要 旨	
氏 名	新崎 泰史
題 目	小規模離島における野菜産地の形成と展開過程に関する研究 (A study on the formation and development process of vegetable production areas in small-scale remote islands)
<p>離島は人口の減少と高齢化が著しく進展しているが、わが国の国土保全などに重要な役割を果たしている。そのため、離島住民の定住条件を維持していくことは社会的にも重要な課題であり、産業振興による所得確保が求められている。離島において農業は産業の中心的な役割を果たしているが、近年では安価な外国産農産物の輸入が拡大する一方で、価格・所得政策などによる国の支援が縮小しており、従来型の農業のみでは所得確保が困難となりつつある。とくに農業経営の規模拡大が困難な小規模離島ではそれがより顕著であり、野菜など高収益作物の産地化が期待されるが、産地形成の条件はもとより、産地維持の課題が明確にならなければ、根拠を持って離島振興施策を講ずることは困難である。</p> <p>そこで、本論文では沖縄県内の小規模離島を対象として、野菜産地の形成および展開過程を分析し、小規模離島における野菜産地の形成条件と産地維持の課題を明らかにすることを目的とした。研究方法は統計資料の分析とあわせて、次の3つの産地を事例としてヒアリング調査等に基づく実証分析を行った。第1に、輸送条件がきわめて厳しい遠隔地にある北大東島のカボチャ産地の事例である。第2に、鮮度保持が商品化の重要な要件である生鮮野菜の産地化に成功した伊良部島のエダマメ産地の事例である。第3に、野菜の産地化に成功したものの、縮小・後退にある津堅島のニンジン産地の事例である。</p> <p>本論文の具体的な研究成果は、概ね次のとおりである。</p> <p>まず、統計分析より、わが国の離島農業は肉用牛と工芸作物の生産が中心となっているが、沖縄県内で長年にわたって耕種部門を支えてきたサトウキビの収益性が低下していることを明らかにし、規模拡大が困難な離島農業の維持・発展を図るためには高収益作物の導入が重要となっていることを指摘した。</p> <p>また、沖縄県内の離島市町村における野菜生産の動向をみると、一部には産地形成に成功しているところがあるものの、未だ多くの離島市町村では産地形成には至らず、いったん形成された産地であっても維持・存続を図ることが困難であることを示した。</p> <p>つぎに、北大東島のカボチャ産地と伊良部島のエダマメ産地の事例分析から、小規模離島における野菜産地の形成条件として、①生産量が少なくても安定供給を可能とする生産・出荷方法の確立と販路の選択、②集出荷過程を支える労働力と施設などの社会資本の不足への対応、③鮮度保持と輸送コストの低減に向けた取り組み、④生産から販売までを支援する組織の存在とそれによる産地システムの構築などが重要であることを明らかにした。</p> <p>さらに、津堅島のニンジン産地の事例分析から、小規模離島において野菜産地の維持・存続を図るための課題として、①担い手の減少・高齢化に伴う農業労働力の弱体化への対応、②兼業する漁業や複合経営部門など、より有利な産業や品目が出現した場合の対応、③老朽化するかんがい施設などの生産基盤の維持・更新、④産地形成を牽引したリーダーの継承など、リーダー人材の育成・確保などがあることを明らかにした。</p>	